

貨幣博物館リニューアルオープンへのご祝辞

国立歴史民俗博物館 館長 久留島浩

本日、日本銀行金融研究所貨幣博物館がリニューアルされましたこと、本当におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

貨幣博物館は、開館以来30年間にわたって、日本貨幣史について、豊かな収蔵資料を用いて、丁寧な調査・研究活動を行い、いわば学界のあるいは学説のスタンダードとでも言えるような展示をする専門博物館としての特徴を遺憾なく発揮してこられたと考えております。

とくに、今回リニューアルされた展示の構成案については、少しだけですが、拝見する機会がありまして、目配りの効いた、わかりやすいだけでなく、現時点での日本貨幣史、あるいは日本金融史の研究の到達点を示していると感じました。私自身も大変勉強させていただきました。このような本格的リニューアルを行い、将来にわたって日本貨幣史の学界スタンダードを示し続けるのだという英断をされた日本銀行金融研究所に心から敬意を表するとともに、この展示構成を考案し、実現された学芸員の方々をはじめとするスタッフのみなさまにも、敬意を表したいと存じます。

「貨幣」博物館なのに「お金はいりません」という洒落たキャッチフレーズ（リニューアルオープンのチラシ）にも心を打たれましたが、「貨幣がどのように使われてきたのか」、お金を作った人やお金を使った人たち、概して庶民の生活についても知ることができるように、よく工夫された展示は、日本のことを知らない外国人来館者は当然のこと、日本人にとっても日本の歴史を学ぶうえで貴重な場になるものと思います。

次に、すでに黒田総裁がご紹介されていたことですが、資料展示ケースの仕様を含め保存環境についても十分配慮し、いわば貴重な資料を将来にわたって、保存しながら継承するということをきちんとやろうとされていることです。これは、これからの博物館にとってはきわめて重要な点だと思えます。

私の国立歴史民俗博物館は、こちらとほぼ同様で開館33年目になります。これまでに計画的にリニューアルをして参りましたが、どうも展示はいったん作ると、大きなリニューアルをすると、もうそれでゴールだと思われがちですが、展示は、実は研究も同じですが、一つの課題を終えたらそこから新しい研究が始まるわけで、リニューアルした展示は、多くの人びとの目に触れ、展示物をめぐる新しい議論がおこる場でもあるわけです。それは、また新しい研究・展示というサイクルのスタート地点に立っているのだということです。展示をめぐる研究の視点は必ず広がり、深まります。それに合わせて展示を進化・深化させ続けることが必要だし、この新しいリニューアル展示は、進化する展示の条件を十分に持っていると思えます。

現在10万人という入館者がいらっしやると伺いました。なかには一度限りの来館者もいらっしやるでしょうが、効果的な企画展示を行い、常設展示を進化させ続けるならば、リピーターが増えることは間違いないと思います。そうすれば現在進行中のこの地域の再開発と相まって、文化的拠点として、なくてはならない役割をも果たすことになるものと思います。

新しい展示オープンにあたって、展示をみる人にわかりやすい展示、資料にとって思いやりのある展示、そして進化しつづけ、いつ来ても新しい発見がある展示、そしてそのための前提とも言える、学芸員をはじめとする専門的職員の方々の調査・研究活動の一層の進化・深化が今後も継続されることを期待し、私の拙いお祝いのことばとさせていただきます。

本日は、本当におめでとうございます。

以 上